

# 令和8年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①ICT を活用した組織的授業改善に取り組み、変化の激しい社会に適応できるよう、生徒の資質・能力を高める。</p> <p>②大学進学等の多様な進路希望を実現させる学習指導を充実させる。</p>	<p>①昨年度までの組織的な授業研究の成果を踏まえて、人工知能AI を授業づくりに活用し、授業改善に取り組む。</p> <p>②個に応じた進路希望実現に向けて、計画的かつ組織的に学習指導及び学習支援を行う。</p>	<p>①年度当初に年間を見通した授業研究の計画を立て、職員全体で研究テーマを共有し、互見授業、校内研修、公開研究授業を行う。</p> <p>②1・2年次においてはスタディサプリ、夢ナビ講義動画等を活用し、生徒の主体的な学びを促し、キャリア意識を醸成する。</p> <p>②生徒の多様な学びに対応するため、学習支援の年間計画を整備し、年次・グループ間で連携しながら実施・振り返りを行う。</p>	<p>①授業改善の取組を通して、生徒の学習に取り組む態度や意識を醸成することができたか。 (生徒による授業評価) 研究テーマに沿って普段の授業づくりに職員の意識が高まったか。 (職員アンケート)</p> <p>②生徒のスタディサプリの利用率が上昇し、生徒の学習意識が高まったか。夢ナビ講義動画を積極的に視聴し、キャリア形成に役立てることができたか。 (担当者による評価)</p> <p>②個々の状況に応じた学習支援について、学校とのつながりの維持、個別に応じた柔軟な対応、及び継続的な支援の実施状況をもとに学習支援ができたか。 (担当者による評価)</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>①組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</p> <p>②規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。</p> <p>③学校行事、生徒会活動、地域行事等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う</p> <p>④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。</p>	<p>①職員間の教育相談への意識の高まり中で定着した「積極的」アプローチ体制を、より効果的かつ迅速に教育相談につなげる。</p> <p>②校内や地域におけるルールやマナーを遵守することを通じ、生徒自身が自己の在り方をしっかり考え、自律した行動ができるよう養成する</p> <p>③学校行事、生徒会活動、地域行事等で、生徒が主体的に取り組み、自己肯定感と協働する態度を育成する。</p> <p>④部活動をとおして、充実感や達成感をもたせ継続させることで、豊かな人間性や社会性を育成する。</p>	<p>①校内体制の整備とともに、外部資源を活用した、組織的な教育相談を実施する。</p> <p>②生徒・保護者・地域等と連携し、校内ルールの在り方を検討する取組を実施する。</p> <p>③学校行事、生徒会活動、地域行事等で、個人やグループとして主体的な参加ができるよう促す。また参加した生徒が他者と協働し、自己肯定感が高められるよう行事運営を工夫する。</p> <p>④前年度初めて実施した部活動に関するアンケート結果を参考に、部活動で充実感や達成感を得られるよう、各部活動で活動計画を立案する。</p>	<p>①サポートドックを中心とした積極的支援を、年次及び職員全体で取り組み、生徒一人ひとりに応じた支援ができたか。(担当者による評価)</p> <p>②生徒自ら規範意識を高め自律した行動ができるようになったか。 (担当者による評価、生徒アンケート)</p> <p>③各行事への取り組みをとおして、他者と協働して取り組み、自己肯定感を高めることができたか。 (生徒アンケート)</p> <p>④部活動の継続率が、前年度（部活動入部者59.2%中、継続者48%、途中退部者11.2%）より上がったか。 (生徒アンケート)</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察することができるような進路指導を展開する。	① 21世紀型リーダーシップ教育を導入・実践し、生徒一人ひとりがリーダーシップを発揮できるよう支援を行う。 ① 生徒が自分自身の在り方生き方について模索するための探究的な学びを支援する。	①リーダーシップ入門の授業実践等により、生徒のリーダーシップ発揮を促し、様々な場面で活用できるよう機会を設ける。 ①生徒が自らの在り方生き方を考えるための学問適性・職業適性のアセスメントを実施し、キャリアの基盤を築くよう支援する。	①リーダーシップ教育によって、生徒にどのような成長が見られたか。 (生徒アンケート) ①アセスメント後、自身に新たな可能性を発見することができたか。 (生徒アンケート)
4	地域等との協働	①地域の教育力や外部の人材を活用した教育活動を推進する。 ②共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育をすすめる。	①高大（高専）連携や外部講師等の活用により、生徒のキャリア意識の啓発を図る。 ②生徒会等を主体とした三ツ境支援学校分教室生徒との交流活動を通じて、インクルーシブ教育を推進する。 ②多文化共生に向け、外国人への理解を深める。	①外部機関や地域との連携を図るだけでなく、夢ナビ講義動画を活用し、高校卒業後の進路選択に役立てる。 ②対面式、体育祭、文化祭、部活動等で分教室の生徒と交流する際、より深く関わることができるよう工夫する。 ②外国籍の生徒が、学校生活で不満に感じることがないか調査し対応する。	①生徒のキャリア意識啓発に繋がる、効果的な取組ができたか。（担当者による評価） ②三ツ境支援学校分教室との交流をとおして、障がい者共生への意識が向上したか。（担当者による評価） ②外国籍の生徒の意識調査で不満が減少したか。 (担当者による評価、生徒アンケート)
5	学校管理 学校運営	①学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ②本校の教育活動を積極的に発信し、学校の魅力をPRする。 ③教職員の働き方を見直し、教職員自身のウェルビーイングを高める。	①DIG 実習等とおして防災意識を高めるとともに、学校内外の清掃に努め美化意識を養う。 ②ボランティア生徒の協力のもと、生徒主体の広報活動を実施する。 日々のHP 更新や学校案内の刷新により、タイムリーな情報提供を行う。 ③時間外勤務の把握と削減を実現させて、休暇の取得を推進して、教員が生徒と向き合う時間を確保する。	①LHR や防災訓練の際にDIG 実習等を実施し、生徒に危険地域や防災についてより具体的なイメージを持たせ、防災訓練及び清掃活動の意義について考える機会を充実させる。 ②年度当初に各年次でボランティア生徒を募り、職員と生徒が協働して、よりよい広報活動を展開する。 各学校行事での記録をとり、生徒の生き活きとした活動を掲載する。 ③学校・家庭連絡システムの導入、および衛生委員会を活用して時間外勤務を削減する。	①諸活動において生徒の防災意識や美化意識を育成することができたか。（生徒アンケート） ②学校見学会や説明会において参加者が満足する説明等ができたか。 (参加者アンケート) 校内における学校行事や部活動の実績など、常に新しい情報をHPに掲載することができたか。（担当者による評価） ③衛生委員会による周知や推進できたか。時間外勤務を把握し、減少したか。（衛生委員会による評価、勤務時間管理システム）